

現代人間学部 総合文化学科	表現学部 総合文化学科
現代人間学部 心理教育学科	現代人間学部 心理教育学科
現代人間学部 芸術学科	表現学部 芸術学科
2023年度退職	2023年度退職
現代人間学部 心理教育学科	現代人間学部 心理教育学科
現代人間学部 人間科学科	現代人間学部 人間科学科
現代人間学部 経営学科	経済経営学部 経営学科
2024年度退職	2024年度退職

和光大学の先生が学生に読んでほしい本を紹介する『本を読もう！』の第6集が、2025年3月末に発行されます。それに加え、『本を読もう！』の第6集が、和光大学の多様な研究分野を脈々と受け継いできました先生方に感謝と敬意を込めて、ぜひ、本とともに手に取ってお楽しみください。

本を読もう！ 退職教員記念号

『本を読もう！』第6集は2025年3月末に過去の刊行物も、下記QRコードの図書・情報館ホームページにて公開です。

図書・情報館ホームページにて公開です。

ぜひご覧ください。



本線で切って8つに折りたたむ☆

和光大学附属梅根記念図書・情報館

『本を読もう！』第6集は2025年3月末に過去の刊行物も、下記QRコードの図書・情報館ホームページにて公開です。

図書・情報館ホームページにて公開です。

ぜひご覧ください。

『本を読もう！』第6集は2025年3月末に過去の刊行物も、下記QRコードの図書・情報館ホームページにて公開です。

図書・情報館ホームページにて公開です。

ぜひご覧ください。

退職後の過ごし方・楽しみを教えてください！

2023年度退職 比較神話学 松村一男 先生

退職から一年経ちましたが、今も大学の図書館（2学期）を利用して、授業から先生方、職員さんまで先生から後援者まで見られています。市民向け講座もして、自分なりの活動もしています。

『本を読もう！』第6集は2025年3月末に過去の刊行物も、下記QRコードの図書・情報館ホームページにて公開です。

図書・情報館ホームページにて公開です。

ぜひご覧ください。

『本を読もう！』第6集は2025年3月末に過去の刊行物も、下記QRコードの図書・情報館ホームページにて公開です。

図書・情報館ホームページにて公開です。

ぜひご覧ください。

退職後の過ごし方・楽しみを教えてください！

2023年度退職 現代人間学部 心理教育学科 後藤紀子 先生

今は、非常勤講師として先生たちと一緒に、やったり、学生たちとイベントの企画も多くとって過ごしています。少しの間ですが、先生方から後援者としてお名前をいただいています。

退職後の過ごし方・楽しみを教えてください！

2024年度退職 経済経営学部 経営学科 企業論 鈴木岩行 先生

まだしなければいけないことが多く、退職後のことまで考えが及びませんが、勤務を除いて当分は今の生活と同じことをするだろうと思っています。これまでの生活の中心は読書と（主としてアジアへの調査のための）旅行でした。読書は研究のための読書は、気に入った1人の作家の作品を読破するスタイルです。最近では内田康夫の著作約100冊読み切りました。内田康夫の小説は旅行ミステリーなので、小説の舞台となった場所へ行くと、現場感が伝わります。これからは他の作家の作品の読破を続けていきたいと思っています。旅行に関しては、今後は海外に行くことはなくなると思うので、国内でまだ行ったことのない地方へ行ってみたいと思っています。

『カレ』移民の謎
——日本を制する「インネパ」
空橋裕和（集英社新書）

在日ネパールの数は今や二〇〇万に達し、中国、ベトナム、韓国、フィリピン、ブラジルに次いで第六位で、ネパールの人口は日本にほぼ等しい。人口比では、歴史的経緯のある韓国を除けば一位です。現在インド料理（インド・ネパール料理を含む、以下インドネパ料理）店が増えています。本書は、そのコックの多くがネパール人で、在日ネパールの三分の一はインドネパ料理のコックとその家族だといわれています。本書はなぜ今インドネパ料理店が増えているのかというところから、人口減少の続く日本で今後貴重な労働力になるであろう在日外国人の生活の一端を紹介しています。

『地方消滅 2
加速する少子化と新たな人口ビジョン』
人口戦略会議編著（中公新書）

『中央公論』二〇一四年六月号に「このままでは全国八九六の自治体が消滅する」と発表され、各界に衝撃を与えました。それから十年が経って著された本です。1部が消滅自治体最新データ篇で、自治体可能性などが紹介されています。2部は二〇〇年への提言篇で、安定的で、成長力のある「八千万人国家」を目指すべきだとしています。人生百年時代に向かつて、後約八十年ある皆さんには非関心を持ってもらいたくないテーマを扱っています。

退職後の過ごし方・楽しみを教えてください！

2024年度退職 現代人間学部 人間科学科 衛生学 野中浩一 先生

Q.退職後の過ごし方・楽しみを教えてください！

部屋の白樺で、個人の生を飾る行動ができていない不届き者なので、どこまで「からだ」と「こころ」が深くかかっているか、おそく、趣味の自然観察は続けつつ、私を変えてくれた四半世紀の和光生活をふりかえってかみしめたいと思っています。そして、誰かの役たつことが少しでもできる行いができれば幸せです。

『とりばん』
（第一巻 雑談中）
とりのなん子（講談社）

足もとの自然を
深呼吸しながら生きるお手本

卒業後の人生を豊かにする智慧をどう伝えたいのか。むろん万葉など思いつかないのだが、ストレスを抱えやすいわが前半生のバランスを保たせてくれたのはパドミントンというスポーツ。身体に限界が来た後半生では、足もとの自然がその代わりとなった。目覚めてみれば、和光大学近くの自然の恵みはあちこちにある。東北の片田舎を舞台とするこのシリーズの最初に登場するアオガラだつて、キャンパス内でも出会える。本シリーズは野鳥を中心とする生き物とのやりとりがコミカルに描かれる。季節の移ろいを感じながら自然を深呼吸する。それはお金にはならないが、いのちの豊穡を感じ、人生を豊かにするものと感じている。



退職後の過ごし方・楽しみを教えてください！

2024年度退職 現代人間学部 心理教育学科 教育行政学 山本由美 先生

Q.退職後の過ごし方・楽しみを教えてください！

1年は「自主的休暇」に。でも、学校統廃合問題の議論が夏まで入っています。9月から半年、アメリカ・シカゴ市の大学に行けるよう手続きをしています。サバティカル休暇がちょうどコロナでキャンセルできなかったから。次の年からまた動きます。少しでも余裕ができればいいかな。いつか自治体の教育行政の仕事をしたい。余暇は推し活。

『子どもの権利
——国連審査と子どもの権利論の深化
（世取山洋介著作集1）』
世取山洋介（旬報社）

子どもの意見表明権を尊重して、というわがまま放題、子どもの言いなりになる、といったネガティブな声も噴き出る。子どもの権利条約を日本政府が批准して三二年、政府は「子どもの意見表明権は原則には適用されない」といって、国民に広く権利を知らせる義務を怠っている。これも基本法（二〇一三）でほんの少し風向きが変わったかも。子どもの意見表明とは、子どもの主体的な世界への働きかけとそれを受け止める大人との関係の権利である、と世取山は述べている。言葉以外のすべての感情や行動や時には自傷行為さえも、子どもの「意見表明」であり、大人に受容されてはじめて子どもは成長・発達することができるのだ。和光学園の二つの小学校は、「子どもの主体性」から出発した教育実践をめざしている。きっとこの権利の実現になるはずだ。

『ひとりの体で』
（上・下）
ジョン・アーヴィング（新潮社）

「性別は男と女の二つだけ」トランプが信じられない大統領令にサインをするこの世界で、性の多様性、性的少数者の存在を当然のことと思う人、ジェンダー意識が最先端の和光大学に通う人らにぜひ読んでほしい。保守的な田舎で成長し、小説家になるバイセクシュアルのウィリアムの自己形成史なのだが、繰り返し読み過ぎ何冊もポロポロに。つらい時にしみる。現実は一九八〇年代のエイズ禍で起きた痛ましいできごと、愛する人との出会いと別れ、そしてディケンズの長編小説を愛するアーヴィングが最後の最後にガツンと来るセリフを準備している。「僕にレットテルを貼らないでくれな——僕のことを知りもしないうちから分類しないでくれ！」それは少年の時に出会ったトランスジェンダーの図書館司書「生涯の恋人」が彼に発したのと同じ言葉だった。

退職後の過ごし方・楽しみを教えてください！

2023年度退職 表現学部 芸術学科 プロダクト・デザイン 倉方雅行 先生

Q.退職後の過ごし方・楽しみを教えてください！

大学を退職後も以前と変わりなく、興味あること一つひとつ丁寧に取り組み、マルチに活動しています。特に大学を離れた事で、デザインの概念をより広くみられる様になったのかわかりませんが、多方面からお声をかけて頂き、プロダクトデザインはもとより、幼保・保育園や小学校などでのデザイン教育へお手伝いさせて頂いています。

『廻る思考』
佐藤卓（新潮社）

マルチなデザイナーとして有名な著者は、人と物との関係性のデザインを、可塑的に考えることの重要性を語っている。NHK Eテレの「デザインあ」や明治乳業の「おいしい牛乳」などの日常生活に密接に関わる仕事を手掛けている人かと言えば、思い当たるのではないだろうか。本書の中で、彼の仕事を通した身近な事例を挙げ、彼の仕事を通してデザインをデザイナーを心掛けている者に限らず、一般生活者にとっても分かりやすい。特に、「何もしないこともデザイン」であるという点では、かつて仕事を一緒にさせていた私には、とても素直に理解ができる。何かを施すことがデザインの様に思われがちな現実において、デザインの本質というか、本来の正しい意味が正確に教育されていない我が国では、まだまだ啓蒙活動が必要がする。日常的生活に、自然にデザインの本質が滲れる様に、多くの人に読んで欲しい一冊である。

『三流シェフ』
三國清三（幻冬舎）

ざっくりと同年代の彼の存在を知ったのは、『皿の上』に、僕がある。それは私が社会人として働き始め、思い描いていた世界とはどうも違つと、気が付き始めていた八〇年代始め頃だった。調理が好きなのは、彼の料理に興味があったが、それ以上には生い立ちや経歴がとておもしろい。おそらく、デザイナーの仕事、いやそれ以上に、生き方を模索し始めていた私の心の隙間に、染み込んで来たのだ。彼の影響が分らないが、その後、私は節目の三〇歳を挟んで世界一周の旅に出かけ、それから三十年以上を経て本学の定年退職を控えた頃に再び出会った彼の決意書。何もしていない者ほど人の功績にジェラシーを感じ、努力している者ほど人をリスペクトする。彼が節目の歳を感じ、次の夢を描きはじめたことを記した一冊がこの本。新たな序章なのだと感じる。